

神宝館

神宝館は辺津宮境内、本殿の左側にあります。沖ノ島で行われた考古学の発掘調査で出土した品々を保管するために 1980 年に建てられました。

シルクロードからの奉獻品

航海の安全を祈願した貴重な贈り物という形で、遠方は古代ペルシャからも宗像大社の神々に奉獻品が捧げられました。沖ノ島で発掘された品は日本と外国との交易の広さや、この島が重要な意味を持っていたことや、日本の大部分を支配していた大和朝廷(300-710)による祭祀について教えてくれます。

1954 年から 1971 年にかけて調査が行われ、8 万点以上の出土品が発掘されたことで沖ノ島の重要性が明らかになりました。多くは 4 世紀から 9 世紀末までの数百年の間に、祭祀で用いられました。発見された全ての品は、国宝に指定されています。

純金で作られた朝鮮製の指輪(520 年製)や、動物と神々や三角形のモチーフで装飾された中国製の青銅の鏡(320 年製)、ササン朝ペルシャからのガラス(224~651 年製)など、重要な製品がいくつも含まれています。

沖ノ島で発見された宝物は 1 階と 2 階に位置しています。3 階には、宗像氏と宗像大社に納められた貴重な文書・古代の彫刻・甲冑・日露戦争 (1905 年) の品々などの収集品が収蔵されています。